

えびみ

立川と語ろう 立川に生きよう

April 2024

Écoutez Bien Vol.40 No.469

4

往年の名アナウンサー 村田幸子さん

表紙／金塊階段(柴崎町)





フレンチタパスとナチュラルワイン S・E・C



美味しく季節を味わえます

春には春のWell-being
ランチもディナーも、もちろんティータイムも
満足時間を
スタイリッシュなロケーションで、どうぞ

春は「はじめまして」や「さようなら」の季節。
集まって、美味しいものを食べたり飲んだりすれば、
気持ちが通ってより仲良くなれます。
そんな時、快く対応してくれるのがS・E・C。
世界最高峰のスライサーで擦った生ハム。
これがいいんです。
野菜のタパス、魚介のタパス、お肉のタパスと続いて、
サラダがまたいい。
何度も食べたくなるS・E・Cのお料理。
ワインがお好きなら、なおのこと。
迷うより、ぜひ一度。おすすめです。



Well-Being Party Plan [E]

フリードリンク120分がついて、おひとり様6000円

写真は2人前、ボリュームです(日によって素材が変わることもあります)

フレンチタパスとナチュラルワイン S・E・C

立川市緑町3-1 グリーンスプリングス2階 TEL 042-519-3560

定休日 無休(街区の休業日に準ずる)

営業時間 11:00~22:00

パーティーメニューにはありませんが、S・E・Cのデザートは食べないと損した気持ちになるのでご紹介。フランボワーズのムースがのったテリヌスショコラ(上)とヌガークラッセ

多摩の人になりました

緑の多さが気に入って

50代後半以上の人には懐かしい。
テレビを通して見ていたお顔。
今立川にいらっしゃるといって行ってきました。

——懐かしいお声ですね。NHKに入局された経緯は?

村田 私自身は放送の仕事につきたいと思っていたのですが、当時はカメラマンも記者も、ディレクターも女性の募集はなく、放送職ではアナウンサーだけでした。女性アナウンサーの歴史は長いのですが、当時は民放さんもNHKも4年生大学を卒業した女性を企業の中でどう位置づけるか、使い方がよくわからなかった時代だったと思います。それでも門戸は開かれていて、全国から相当数の応募があったと聞いています。

——狭き門ではあったのでしょうか。

村田 狭き門でしたよ。第1回の東京オリンピックの前年、NHKとしては大量採用の年でした。アナウンサーとして合格した女性は8人だったかな。男性も含めると60人くらいでした。私はお陰様で、その大量採用に紛れ込みました。——アナウンサーとしては、どんな道を歩んでこられたのですか。

村田 当時の女性アナウンサーはテレビの中ではいわばお飾り。メインは男性、女性は完全なサブ。感じよくニコッと笑っていればよし、というような時代でした。つまり政治・経済・社会のニュースは男性の担当。女性は桜が咲いたとか雨が降るとかというような季節の便りみたいな、いわば世の中の動きに関係ないような話題を伝えるという関係でした。

そんな折り、市川房枝さんたちが、女性の地位を向上させる必要があるということで、NHKの女性アナウンサーの扱いもきちんと位置づけるべきと申し入れてくれたことがあります。外部からの応援もあって、私が最初に願っていた報道の仕事ができるようになったのは、亡くなられたエリザベス女王とフィリップ殿下が国賓として日本に来られた時です。その中継を私が担当しました。帝国ホテルから皇居お堀端を通

て国立劇場までの1.9キロ。オープンカーパレードでした。

——すごいじゃないですか!

村田 国賓の来日ということで民放、NHKを含めて、どの放送局も大変でした。こうした歴史に関わる出来事はすべて男性が担当していたのですが、この時は多分、人が足りなくなったのだと思いますよ。私だけがポツンと男性中心の放送現場に投げ込まれました。

まあ、何とか恙なく放送を終えることが出来て、それからですね。女性でもこうした仕事が出来るといって、ある程度の認知が局内で得られたのは。それから私が報道の仕事に関われるようになり、昭和54年に、NHK7時のニュースに、私たち女性アナウンサーが登場するようになりました。

——まだ半世紀経ってない!

村田 それでも「女が7時のニュースを読むとは何事だ」という電話や手紙がきましたね。つまり視聴者の意識そのものが、そういう感覚でしたね。

——世の中もどんどん変わって、村田さんは解説委員にもなられて、退職後は高齢者の住まい方にも挑戦されていました。あれはどういうことだったのですか。

村田 お一人さまの人たちはよく「ひとりで寂しいとか心細い」とか言うでしょ。家族がいなくてか夫に先立たれたとか。それだったら友だちという仲間があるのだから、友だち同士一緒に暮らすという試みをしてみようと思ったのです。そもそもは友人同士の旅行での夢物語からです。「将来、こんな風に友だち同士が集まって一緒に暮らせたらいいわねえ」という話が具体的に動き出したのは、私が60代の初め頃です。場所は関西。というのは旅仲間は関西の人が多かったのです。私も大阪放送局に2回転勤しているのです。関西に馴染んでいました。

「友だち近居」と名付けて、こうした住まい方に関心を持つ友人たちに声を掛けたら14~5人集まったかなあ。しかし話し合いを重ねていくうちに温度差が出て、仕切り直し。本当に一緒に住みたい人たちだけが集まったら8人でした。最初は家を建てようと考えて土地探しをしたり、マンションを探したりしたのですが、経済的に折り合わないことが多く、どこも帯に短し褌に長しでした。

そんなこと5年くらいやっていたかな。次第に皆、年をとってきて実現困難なことが増えてきたんですね。そこで残念ながら解散しようということになりました。それが10月で、せめてクリスマスまで頑張って、それでも見つからなかったら解散しよう決めました。そんな折り、ある駅でもらったティッシュにマンションの宣伝が載っていたんです。友人が見に行き、「すごい」という連絡が入りました。そこで順番に見に行ったら、皆賛成。ここがいいと、あつという間に決まりました。ところが全員が揃って入居できるという保障がありません。申し込みの多い部屋は抽選なのです。12月の抽選会まで気を揉みつつ待っていました。

全員、当選の連絡。解散会の筈のクリスマス会が一転、祝賀会になりました。こんな経緯をへて、お一人さま7人の、マンションにおける近居生活が始まったのです。——おもしろ〜い。

村田 日々の暮しで困ったことがあったらお互い助け合う。ただし介護が必要になったら、それはきちんとプロに頼むということを決めました。

そしてもう一つ。私たちお一人さまは好きに仕事だけしてきて、地域に何の貢献もしていない。せめてこれからは自分たちの経験をいかして地域に貢献しようと、サロン活動と名付けた会を始めました。毎月1回、私たちの人間関係

村田幸子さん

昭和38年3月立教大学文学部英米文学科卒業後、NHKにアナウンサーとして入局。スタジオ102、NHKニュースワイド、NHK7時のニュースなど、報道番組のキャスター・レポーターとして活躍。1979年モンテカルロで開催された「女性TV司会者会議」にNHK代表として出席。1990年、NHK解説委員となり、主に福祉・厚生問題を中心に取材。2003年NHK退局。以後、福祉ジャーナリストとして講演・取材活動を続けている

ネットでも公開しています



からゲストをお招きして、お茶を飲みながら友人知人、ご近所さんたちとお喋りをするというものです。こうした暮らし方を増やしたかったのですが、後に続くグループは出ませんでしたね。——「近居」は、結構むずかしそうですね。

村田 いきなりは出来ませんね。お互いの人間性を分かり合う期間が必要です。「あなたがやってくれたら私もやる」という考えもダメですね。私たちは7分の1の負担と責任ということを決めました。程よい距離感を保てる関係を作れるかどうか非常に大きいと思います。

——「近居」を12年ですか、続けられて、なぜ解消されたのですか。

村田 私は長いこと親と同居していて、初めて自分の力で買ったマンションだったのです。それが嬉しくて、どんなカーテンにするかとか、どんな家具がいいかとか部屋づくりを楽しんでいました。そんな引っ越しの最中、8月のものすごい暑さの日でした。ダンボールに囲まれた中でひと休みしていたら、突然、なんと表現していいかわからない感情に襲われたのね。寂しいでも辛いでもない。寂寥感でもないし、どうにも言い表しようのない気持ちで一生懸命言葉を探したのです。この気持ちを何とかしなければ私は皆と暮らしていけないと、引っ越してから気がきました。辿り着いた気持ちは「寄る辺のなさ」という言葉でした。この言葉が、その時の私の気持ちにピッタリでした。——寄る辺のなさ。

村田 私は生まれも育ちも東京で、地方には一軒も親戚がいません。東京にしっかりと根を張っていたわけ。若い時に結婚して地方で暮らし、そこで子育てをして新たな人生を始めるのと違って、60代の半ば過ぎに生まれ育った所を離れ、

新たな土地で暮らすというのでは全く違うことに、その時気がついたのです。しっかり張った根を引き抜いて他へ移すということは不可能だと気がきました。そこで月に1~2回、経済が許す限り東京から通ってくるからということで仲間の了解を得ました。

私の気持ちを仲間に話したら「だから私たちがいるんじゃない」と言われましたが、それとは全く次元の違う私の気持ちで、私の心、根っここの問題だったのです。12年間、東京と関西を行ったり来たり暮らしをして、母も亡くなりましたので、自分自身の老いの暮らしを真剣に考えなければと、東京に戻りました。

——世田谷に戻られた。では、立川にはどうして。

村田 世田谷に戻ると、母と暮らしていた時は感じませんでした。一人の暮らしにはいささか家が広すぎるのです。おまけに家も人間も、メンテナンスを必要とする所が次々と。老いの一人暮らしで一番困るのは、まさかの時の対応。仕事ばかりしてきた人間にとっては、ご近所さんとの繋がりは極めて薄く、頼りにはしにくいのです。そんな時、友人二人が入居している今のホームから「村田さんいかがですか」という声がかかりました。高齢者マンションに医療が

ついているという型のホームです。友人の部屋に遊びに行ったりして、見つけた所でした。ただ私は50年近くも世田谷で暮らして、そこから出る気など全くなく、まして、ホントに失礼な言い方なのですが、なんで立川くんだりまで行かなきゃならないのよと、内心思っていました。ホントに申し訳ないです。

でも実際に部屋を見てみると、暮らしを小さくしたいと考えていた私にとってはお話し向き。しかも部屋の前は緑一色。鳥の声が聞こえ、空気が澄んでいて、世田谷同様暮らせそうだなと思って、移ってきました。

——立川に来られた時には「寄る辺のなさ」は感じなかったのですか。

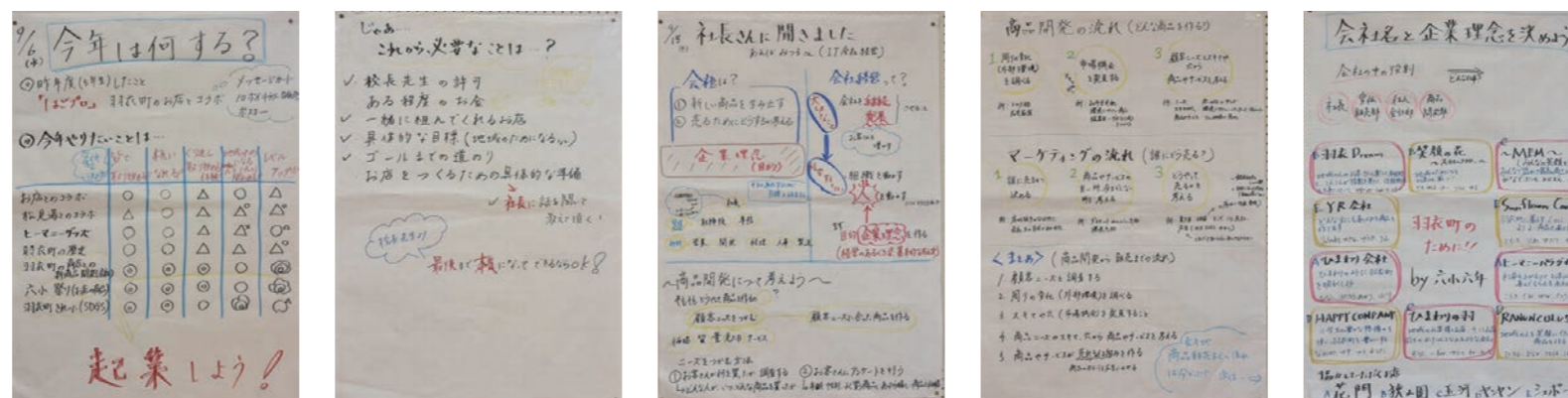
村田 感じませんでしたよ。同じ東京都ですからね。周りからは、私=世田谷みたいと思われていましたが、立川に越すと聞いたある友人が「あら、村田さん、多摩の人になるのね」と言いました。私、この「多摩の人」って言葉がすっかり気に入ってしまっ。

——多摩の、立川の魅力は何ですか?

村田 あまりに便利なのに驚いています。駅に行けば何でもある。そして都会と地方の雰囲気が入居しているような所が何よりいいですね。植物と野鳥好きの私は十分満足しています。



ネットではさらに詳しく公開しています

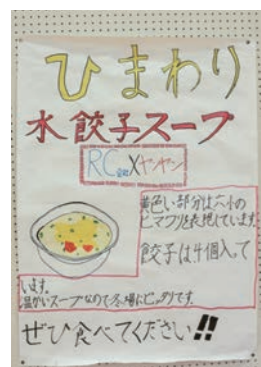


『起業家教育プログラム』の流れ

チケットの販売



1月13日 体育館で新開発商品のチケットを販売、販売に先駆けて広報活動をしている



それぞれのブース(店舗)前にも宣伝文句やキャッチコピー、イラストを入れたり、本物を用意したり、ダミー商品を並べたり工夫はいろいろ



その会社も完売、売上金をまとめている

六小の取組み

楽しんで社会を知る、第六小学校の立川市民科

令和4年に教科となった「立川市民科」

子どもたちが地域に親しみ、積極的に地域に関わることで

よりよい社会の担い手たる市民に育つことを目的としている立川市立第六小学校、

6年生の取組みはずばらしかった



10の会社がそれぞれに収支報告をする

第六小学校の6年生が取り組んだのは『起業家教育プログラム』。と言っても、6年生になって突然始まったものではなく、低学年の時から系統だてた立川市民科授業の最終章。まずはまちを知る。そしてまちに愛着を持って、まちに貢献できるまちの担い手になるのがゴール。『起業家教育プログラム』では、6年生が10の会社を起業して、段階を経て会社経営を学んでいくというもの。最終的には会社の目的である利益を生み出し、それをどう活用していくかまで話しあう。地域の店舗や銀行の力を借りて社会の仕組みを知り、商品開発が簡単ではないこと、お金は交渉しないと出てこないこと、販売には広告宣伝が必要なことなど気づきをたくさん得て、その是非は別としていつのまにか「弊社」「大変申し訳ございません」という言葉を使えるようになっていた。

田野倉校長は児童のパフォーマンス力に、短時間で考え発表する力に、そして社会に目を向けるようになっていたことに驚いたと話していた。まちぐるみで子どもたちを育てようとする第六小学校の立川市民科。昨年も取材させてもらったが、子どもたちの成長著しく、またまちの協力に感動した半日だった。なによりも、みんなが笑顔で自信をもって収支報告していた姿が印象的だった。

収支報告会



収支報告会の準備もみんなで



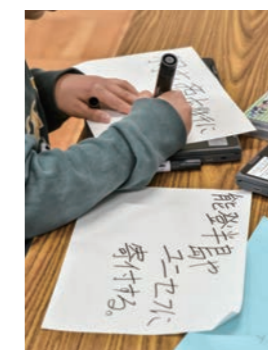
ただ売ればいいのではなく、新商品の開発には企業理念が反映されている



収支決算報告 保護者も他の児童も静かに聞いている



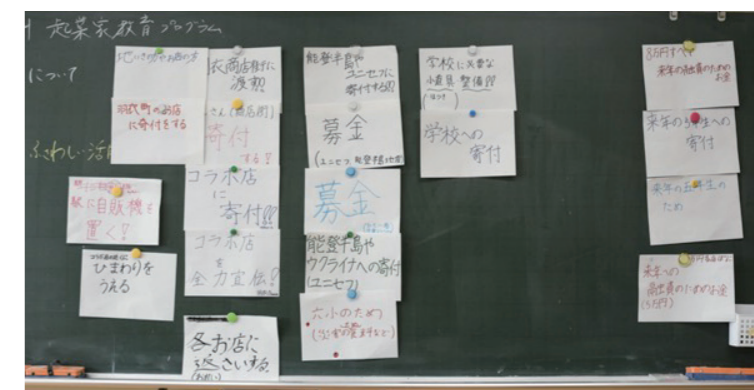
「断られてもくじけないのがポイント」だそうです 勉強になります



8万円という利益をどのように活用するか、ここにも企業理念が反映されてくる



田野倉校長が目指した姿が現実になってきている



10の会社から利益の活用方法が短時間であがってきた。それを黒板に貼ってみる。これだけの考えが出るのがずばらしい。

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 羽衣町・錦町・柴崎町・立川市外のお店です。

羽衣町

錦町

柴崎町

立川市外

- 多摩信用金庫 東立川支店...524-0611
- まごころ銘茶 狭山園.....527-0146
- ギリシャレストラン SHUPOUL 519-3923
- 林歯科医院.....522-5657
- 新鮮野菜・惣菜 立川商店...522-3565
- 本・事務用品 泰明堂.....522-3353
- 本と文具 ないとう.....522-3677
- 赤松タバコ店.....524-7852
- BB TAKAOKA.....521-0236
- お好み焼ともんじゃ焼 けいし 526-1267
- 立川熟成寝かせ蕎麦たかや 595-6922

- 鳥料理 くし秀.....522-7692
- 寿司勝.....522-4874
- イタリア料理 トラットリア ドン シェー512-8735
- 中国料理 五十番.....522-7472
- 一六珈琲店.....527-1680
- 手づくりみそ 材料専門店 北島こうじ店 524-3190
- new gyoza 1059 餃子天国 526-2283
- バー パル アラディ.....523-3917
- CAFE SOMMEILLER.....527-1440
- 康復中国気功整骨院.....529-1088
- 日本クッキングスクール.....522-3440
- 元祖5本指ソックス専門店 LASANTE 540-1616
- ホテル日航立川 東京.....521-1111
- 美容室 アリス.....525-1100
- FALCO hair.....528-2389
- N HAIR WORLD.....523-5336
- 創作料理 cafe & bar 厨~kuriya~595-7449
- 立川駅泌尿器科皮膚科クリニック 548-8802
- TTM (株).....524-5787
- クラウンペーカリー立川店 526-2226
- 三田花店本店.....524-4187
- いわさき痛みの整骨院.....529-5123
- にしやま薬局.....525-9212
- たましん RISURU ホール 526-1311
- 多摩信用金庫 錦町支店.....528-0511
- パン工房 グラティティア.....512-8667
- そば処 高尾亭.....522-2710
- Natural Food Restaurant シェいなば 529-5921
- Garden & Crafts café 0120-41-2877
- 至誠学舎立川.....527-7734
- 至誠ホーム.....527-0031
- 至誠介護相談センター.....527-0321

- 諏訪神社.....522-2968
- バスタビーノ はしや.....521-3386
- 高島ビル.....526-0111
- Hair Room MOON ZETTON 523-0961
- 南武堂剣道具店.....527-0197
- ビジネスホテル 小沢屋.....523-0388
- トーク・スペース.....527-1636
- (株)一心堂.....527-3777
- すかの歯科.....540-2675
- あすなろクリニック.....529-2756
- 入船茶屋.....524-6266
- 串揚げ割烹 トントン.....524-4521
- 不動産 コマツホーム.....525-5811

- 昭島市
- ECO'S 昭島店.....546-3710
- 武蔵村山市
- 中国料理 菜.....561-7233
- 国分寺市
- パンの店 fermata.....534-3334

jorakugajo
真如苑提供番組「常楽我浄」

スカパー！: 529ch
スカパー！で放送の常楽我浄は
スマホアプリ「スカパー！番組表」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩: 11ch・111ch
放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題

掲載しきれなかった写真などはQRコードからどうぞ



「オーベルジュときと」で開催 王将戦

2月7日、8日、「オーベルジュときと」で行われた第73期ALSOK杯王将戦七番勝負第4局で、藤井聡太王将が菅井竜也八段に勝ち、王将防衛を果たしました。タイトル戦20連勝はすばらしいですね。写真は「ホテル日航立川・東京」で行われた前夜祭の様子。酒井市長と共に立川の農業を代表して金子波留之さんが登壇、「立川いちご」を両棋士に手渡しました。



左から酒井大史立川市長、藤井聡太八冠、菅井竜也八段、金子波留之氏

次回も楽しい講演会

宗教情報センターが主催する講演会『宗教を考えるための第一歩』が、2月18日に立川商工会議所の会議室で開催されました。抽選で選ばれた約100名の方が、メモをとりながら熱心に聴講されていました。宗教の話ですから難しいかという、お話が上手なせいか笑いながら、気づくと2時間経っていました。これを読んでいるあなた、宗教は怖いもの、近づかないのが得策、な〜んて思っていないですか？ どうしてそう思うかなど、誤解を次々解いてくれる、終わってみると気持ちのいい講演会でした。次回はまた来年、この頃に。



たっちーフル回転

B3リーグの立川ダイスで大活躍する公式キャラクター「たっちー」。今回は「たっちー」のすばらしい動きをご紹介します。よちよち歩きキャラクターが多い中で、こ〜んなこともできる「たっちー」はみんなの人気モノです。



跳んだり走ったり、ハイタッチしたり



立川消防フェア2024

3月2日午前中、たくさんの来場者が参加しての消防フェア。コロナ禍で思うように開催できなかったイベントですが、今年は青空の下、盛大に開催されました。多摩指令室によるLIVE119の展示もあって、盛りだくさん。最後はやっぱり一斉放水ですね！



だから立高は面白い

東京都教育委員会「令和6年度東京都立高等学校入学選抜応募状況」によれば、今回の全日制一般入試応募倍率第1位が、なんと「立川高校 創造理数科」。2003年に東京都教育委員会から「進学指導重点校」に、2018年には文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール」(SSH)に指定され、以降未来に向かって進化し続ける立川高校。コロナ禍前には天文気象部を取材させていただきましたが、今回は立川高校生徒向けのSSH・理数科企画同時開催ということで行われた『気候変動に関する講演会』と『南極・北極科学館見学会』及び『プラ立川：立川周辺ミニフィールドワーク』という盛り沢山のイベントにお供しました。ファーレアートを観て回り、GREEN SPRINGSを駆け抜けて極地研まで歩き、国立極地研究所副所長 榎本浩之教授の講演を聴講、さらに榎本先生のアテンド付きで科学館を見学。短時間であれもこれものハードな企画でしたが、ついでいく生徒がすごい！ 地学科教諭の可長清美先生がパワフルで、パワフルで、やっぱり立高はおもしろいです。詳細はえくてびあんnoteをご覧ください。



旧たましん本店前の広場で「立川村十二景」を観ながら、説明するのは使われている岩石のこと



気候変動の講演会は極地研大会議室で榎本副所長から。



質沢な授業です。

こたつでビールの面白企画

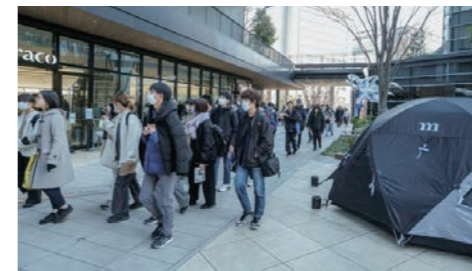
2月の晴れた日に、ドーム立川立飛横で「こたつでビール」なるイベントがありました。地面にこたつ…不思議な光景でした。キッチンカーや屋台も出ていて、もっと早くから知っていたらという人も。4月以降もこのイベントはやるというお話でした。



雨天中止はもちろんです



ファーレアートの生徒たち



GREEN SPRINGSは小走りに 本当はステージガーデンの上から自衛隊駐屯地を見たかったのだとか



質沢な授業です。



南極・北極科学館で 榎本先生の説明付き こども豪華な授業

表紙

憧れのやまぶき色 (柴崎町)

「やまぶき色のお菓子」と言えば、時代劇に出てくる袖の下。そんなもんじゃない。柴崎町のやまぶき色は、金塊にしか見えないシロモノ。これだけあれば、沢山の人の役に立てるのに…。もちろんただの階段なのですが、季節と時間によっては金塊に見えてきます。一度そう見せようと、もうそうとしか見えない。持たぬ者の浅ましさ、でしょうか。シンデレラの馬車や御者と同じで、太陽の位置が変わるとやまぶき色の階段は普通の階段に戻ります。日常に非日常を想像するのもまた楽し。持っていないから言うのかもしれませんが、持っている方々には世のため人のために使ってもらいたいなあと思います。

かたこと

◆小澤征爾さんが亡くなりました。立川に縁ある方でした。柴崎町にお住まいで、野球でバッテリーを組んでいたとおっしゃる方、征爾ちゃんと同じ幼稚園だったという方もいらしたのに、ついで取材できずに今を迎えました。どんなお話を聴けたらどうか、そう思うととても残念です◆1986年から2024年にタイムスリップしてしまうテレビドラマ、ただいま放映中です。たった38年前なのに、まだコンプライアンス研修なんてなかった時代、そういうこんなこと普通にやっていたよねとか、こういう言葉、普通に使っていたなあを昭和を思い出す内容です。そのドラマの音楽を担当しているのが立川人。えくてびあんで2008年3月号に登場いただきました、MAYUKO@ゆうまおさん。常に最前線を走るお姿が頼もしい◆最近は何点の「。」を入れると「マルハラ」と言われるそうです。これには平成前期人だって納得いかないと思いますが、恐るべし令和の青少年◆「今は昔」の姿を現代に移して町に馴染んでいるのが、真如苑の稚児行列。今年も真如苑開祖のお誕生日、3月28日に立川駅南口から真如苑総本部まで練り歩きます。武蔵村山の真如ヤーナの「お花見散歩」はバージョンアップして、ワンちゃんも入れることになったそうです◆花咲く頃から、立川はイベントめじろ押し。変わる立川、変わらない立川。えくてびあんは常に一緒に歩んでまいります。

えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ⑧

4月号 第40巻 通巻469号

令和6年4月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 ダイオーミウラ株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

柴崎分水



えくてびあんの写真から

1995年春に撮影しました。柴崎分水の下を中央線101系が走っていきます。今も分水は中央線の上を流れていますが、水の流れは見えません。現在の姿はQRコードからご覧ください。

玉川上水についてはまた別の時にお話するとして、柴崎分水の取水口は砂川分水を引いたのと同じ場所、松中橋付近にあります。柴崎分水願いの訴願状が幕府に出されたのは1688年でしたが、開通したのは49年後の1737年でした。柴崎分水の水路の特徴は、旧村の各屋敷前を曲がりながら、西から東に、南に下ると今度は東から西へ。知恵を絞ってわずかな傾斜を利用しながら村全体に水を引いていることがわかります。分水は人々の生活を潤し、飲み水に、水車の動力に、野菜を洗ったり、風呂水に使ったり、生活用水として昭和の時代まで使われてきました。昭和40年ころから町の開発が進み、本流は埋められ、現在は支流が流れています。かつての水量は見られなかったとしても、せせらぎは人々に憩いを与えています。

(参考資料：鈴木功氏のお話)

他の写真はこちらで

